

消火栓の使い方

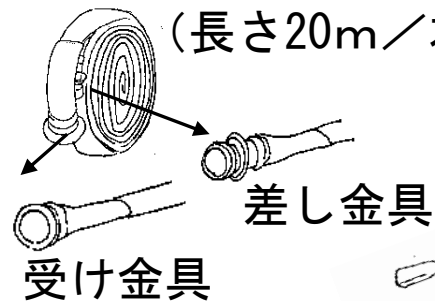
消火栓を使った消火

放水時の圧力が強いことなどから、複数人数（4人以上）の操作が必要である。

消火栓BOXの中には

消防用ホース

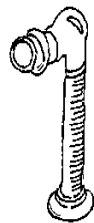
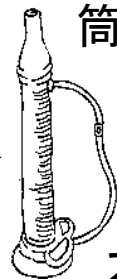
（長さ20m／本）



差し金具

受け金具

筒先



スタンドパイプ

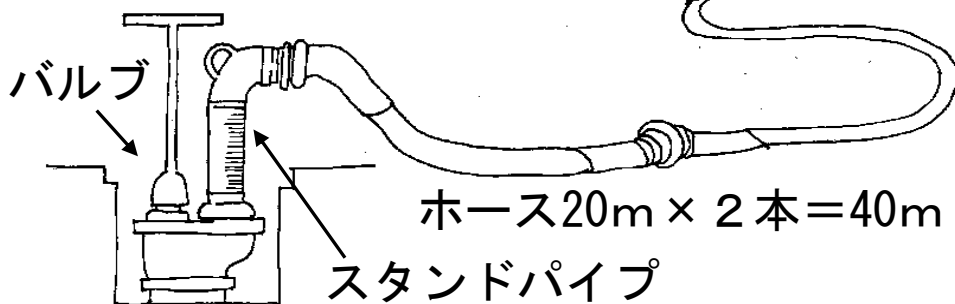


消火栓ハンドル

使用する器具（概要図）

消火栓ハンドル

左回りで水が出る
右回りで水が止まる



ホース20m × 2本 = 40m

スタンドパイプ

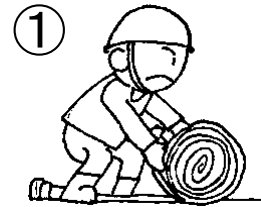
器具同士のつながぎ方・ホース延長



ホースの差し金具がやや上に向くように足で踏み、この金具に、ホースまたは筒先の受け金具をつなぎ、確実につながったかを引っ張って確認する。



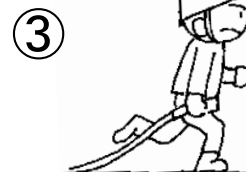
ホースをはずす場合は、つなぐ時と同じように差し金具付近を足で踏み、差し金具の離脱環を両手で引く。



① ホースを立て、右手で差し金具を持ち、左手はホースに添え右足で受け金具付近を踏む。



延ばす方向を決め、ホースを前に転がして延ばす。



③



差し金具を右手に持ち延ばす。



②

放水時の姿勢

【筒先を持つ人】

筒先の取っ手を右手で持って腰にあて、左手で筒先の金具付近を握って火元に向け、左足を一步踏み出した前傾姿勢でしっかりと構える。

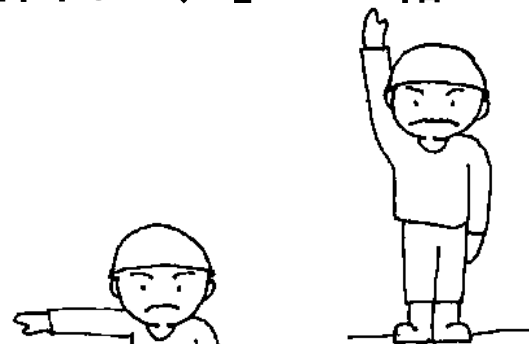
【筒先を補助する人】

筒先を持つ人が動きやすいようにホースの反対側の1～2歩うしろでホースを持ち、腰をやや落とした前傾姿勢でしっかりと補助する。

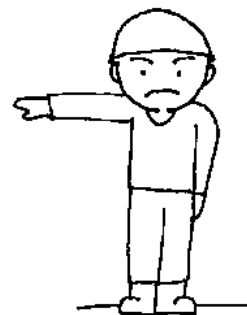


合図

合図は「声」と一緒に「手信号」で行う。



「放水はじめ」
右手を真上に



「放水やめ」
右手を水平に

「収納」
両手を交差



※ 消火栓による放水は、4人以上で安全を確認しながら確実に行ってください。
また、消防隊が到着した際は、消防隊の指示に従ってください。

大津市消防局スタディ動画はこちらから →



【全般的な注意事項】

- 周囲の状況を確認できる余裕を持ちましょう。怪我をしては消せる火事も消せなくなります。
- 手袋やヘルメットを着用しましょう。
- 消火栓の取扱いについては4人以上で行ってください。
- 消防隊が到着した際には、消防隊の指示に従ってください。
- 使用後は、器具等を点検し、元の場所に戻してください。(使用後は近くの消防署にご相談ください。)
- 消火栓の上や防火水そうの前などに車を駐車しないでください。

【消火栓のバルブ開け閉めを担当する方へ】

- 消火栓の蓋は鉄製でとても重くなっています。手や足を挟んだり、腰を痛めないように注意してください。
- ホースが完全に延ばされた状態となり、「放水はじめ」の合図があるまでバルブを開けないでください。
- 消火栓のバルブの開け閉めはゆっくりと行ってください。
- 放水する人が、放水の圧力に耐えられる安全な圧力を保てるよう、バルブの開け閉めで調節してください。

【ホースを延長してください】

- ホースは、消火栓側が受け金具、火災現場側が差し金具です。間違えないように延ばしてください。
- ホースや筒先をつないだ時は、「カチッ」という音を確認し、必ず金具付近のホースを引っ張り、外れないか確認してください。
- 延ばしたホースには、「折れ」や「ねじれ」がないようにしてください。「折れ」等がある場合は直してください。
- 「放水はじめ」「放水やめ」の伝達をしてください。伝達後は、放水する人の後方でホースを保持してください。
- 安全な放水の圧力となるよう、圧力の上げ下げも声や合図で伝達してください。

【放水をする人へ】

- 放水は周りに十分注意し、燃えている家に入らないでください。また、燃えている物(家や車など)に近づきすぎると大変危険です。
- 原則として、風上から放水してください。放水する場所は足場の良い安全な場所を選んでください。
- 放水圧力が強くて一人で持てなくなっても、筒先は絶対に放さず、地面に伏せるなどしてください。
- 後方でホースを保持してくれる人と協力して、一緒に放水するようにしてください。

【問い合わせ先】

北消防署(572-0119) 志賀分署(592-0119) 中消防署(525-0119)
西分署(579-0119) 南消防署(533-0119) 南郷出張所(537-0119)
東消防署(543-0119)